



# 自衛隊栃木地方協力本部

## 夏だ！海だ！プールだ！自衛隊サマキャンだ！ ～夏より熱い募集班長の奮闘2～



J R宇都宮駅前  
(ララポケット前)



小山駅市街地広報の様子



栃木駅市街地広報の様子



オリオンスクエア (宇都宮)



「自衛官募集」を表示した車列  
(宇都宮駅前：大通り)



アピタ足利店の  
市街地広報の様子



J R宇都宮駅前  
(取材記者に自衛隊について  
説明をする本部長)



J R宇都宮駅前の市街地広報



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶恒一郎（陸佐）は、陸上幕僚監部（以下、「陸幕」という。）主導で開始された全国統一夏季採用広報キャンペーン（以下、「サマキャン」という。）の7月21日（金）、栃木県内各所において市街地広報を実施した。本サマキャンは、部外に対して自衛隊の人材確保に対する本気度を発信して、陸上幕僚長の指針である「やることはなんでもやる」を受け、栃木地本は、県内の関係機関、学校、駐屯部隊、協力団体である北関東防衛局宇都宮防衛事務所、航空学校宇都宮校、中央即応連隊、東部方面特科連隊、第307施設隊、募集相談員及び家族会員と協同し、人員170名、車両49両の態勢で市街地広報を15か所、車両巡回広報として「自衛官募集」標示を施した車両で道の駅を中心に20か所を巡回した。この際、市街地広報に連動してSNSを活用した「自衛官を探せ！」イベントを実施して、更なる注目度の向上を図った。

時はさかのぼり、5月31日（水）18:00、東部方面総監部から一通のメールが届いた。内容は、陸幕主導でサマキャンの計画が進んでいることや、実施要領についてである。中でも目を引いたのが、「サマキャン初日の7月21日（金）に全国の地方協力本部が一堂に市街地広報を実施する」というものであった。その文面を確認した募集班長は、「採用広報の祭りが始まる」と確信し、次の瞬間、栃木地本としての参加大綱作成のためキーボードを叩き始めた。陸幕の資料には、7月21日（金）は「全地本」が一堂に市街地広報を実施すると記載されていたが、栃木としては地本の枠に納まることなく、県内の全防衛省職員を含めて実施したいという思いつきともひらめきともいう青写真を描いていた。風呂敷を大きく広げるといことは調整にも時間を要するため、スピード感が求められると判断し、同日、県内5個事務所等の長に対して本サマキャンの情報提供をすることも、各事務所等として実施したいこと、担当地域内の学校が夏休みに入っているのかどうか、市街地広報、車両巡回広報に適した場所についての調査依頼をした。

6月7日（水）、栃木地本としての参加大綱の本部長仰指を終え、支援部隊等を募るため栃木地本の大綱を情報提供し、下調整を始めた。早速いくつかの部隊から問い合わせの電話が入り、好感度だと思つて電話に出ると先方から「栃木地本の募集班長は実在する人物ですか？送られたメールはサイバー攻撃の一種ではありませんか？」と伝えられた。タイミング悪く不審メール対処訓練期間であったため、普段やり取りをすることのない地本からのメールは怪しい雰囲気を出していたのである。逆の立場であったならば、すぐにLANを抜いていたかもしれない。ポジティブに考えれば、本サマキャンを強く印象付けることができた。

栃木県内全域で組織的に実施するという、栃木地本始まって以来の壮大な計画は難航した。市街地広報実施地域の選定、車両巡回広報での巡回経路及び経由地の選定、地本内の連携、他支援部隊等との連携等、手探り状態であったが、それでも確実に漸進していった。全てはその先に待つ募集対象者を始め、県民に自衛隊を広くアピールするために。